

特別重点研究「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」事業の進捗状況について

山田邦明

愛知大学には「特別重点研究」という研究助成の制度があり、総合郷土研究所が中心となる形で「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」というタイトルのプロジェクトを構想して応募し、採択された。2020年度から2022年度にわたる3年の事業で、本年度は初年度にあたる。

愛知大学の敷地には、かつて陸軍第十五師団の司令部と歩兵第六十聯隊が置かれていた。陸軍第十五師団の建物は明治41年(1908)に建てられ、師団長官舎(現在の愛知大学公館)は明治45年の建築である。大正14年(1925)に陸軍第十五師団は廃止となり、師団司令部と歩兵第六十聯隊の跡地には豊橋陸軍教導学校が置かれることになった。豊橋陸軍教導学校の建物が建てられたのは昭和2年(1927)で、そのあと豊橋陸軍予備士官学校の敷地として利用された。敗戦によって陸軍が解体したあと、昭和21年(1946)に愛知大学のキャンパスとなり、陸軍の建物はそのまま利用された。

その後、陸軍関係の建物の多くは解体されたが、現在も遺されているものもいくつか存在する。明治41年に建築された陸軍第十五師団司令部(愛知大学旧本館、現在の大学記念館)、歩兵第六十聯隊将校集会所(かつての総合郷土研究所・中部地方産業研究所)、機銃廠(現在の中部地方産業研究所附属生活産業資料館)、明治45年に建築された師団長官舎(現在の愛知大学公館)、昭和2年に建築された大講堂(現在の第二体育館)、養生舎(現在の教職員組合事務所)である。

こうした歴史的建造物については、これまでにある程度の調査がなされてきている。陸軍第十五師団司令部(愛知大学旧本館)は平

成10年(1998)に国の登録文化財に指定され、師団長官舎(愛知大学公館)は平成14年(2002)に豊橋市の指定有形文化財となり、平成27年(2015)には綿密な建築調査の成果をまとめた報告書が作成された。このような実績もあるが、歩兵第六十聯隊将校集会所・機銃廠・大講堂・養生舎については、本格的な調査がなされておらず、建物の老朽化も進んでいる。国の登録文化財に指定された師団司令部についても、本格的な調査報告書は作成されていない。また、こうした建物のほかにも、陸軍の時代に造られた門や壁などの建造物(遺構)が各所にあり、全体的な再認識が必要となっている。

こうした現状を克服するためには、現在も遺されている5つの建物(師団司令部・将校集会所・機銃廠・大講堂・養生舎)について本格的調査を実施し、あわせて建物の耐震診断も行って将来の指針を考える足がかりとすることが喫緊の課題となる。このことを実現させるために特別重点研究に応募し採択をみたが、「愛知大学等における歴史的建造物の調査・研究」と題するこの特別重点研究においては、愛知大学の内部に所在する歴史的建造物の調査に止まらず、より視野を広げた調査や研究を行うことも課題としている。大学の外に所在する陸軍関係の建造物や遺構についての確認・調査を行い、陸軍の敷地全体のありようを把握すること、第十五師団と同時に設置された他の師団の跡地に赴いて建造物の見学や資料収集を行い、それぞれの師団における建造物の立地分析を加えることなどが、ここで提示した課題である。

軍隊が置かれたところには堅固で質の高い建造物が多く造られ、軍隊が退去したあとは、

役所や学校など公共の場所として転用され、建物の多くはそのまま利用された。愛知大学はこうした事例の典型であり、古い時代の建造物が遺されていることの意味は大きい。歴史学・地理学・建築学の協同によって調査・研究がなされれば、有意義な学際的研究となりうるし、日本の近現代における軍隊・大学の位置づけや建造物利用の歴史にかかわる研究の進展に寄与できる。

2020年度は特別重点研究の初年度にあたり、最も重要な課題である建物調査を行った。建物調査については泉田英雄氏（元豊橋技術科学大学准教授）、耐震診断については魚津社寺工務店に委託して作業を進めていただいた。9月11日に泉田氏が来学されて建物の確認を行い、10月23日から25日にかけて泉田氏を中心とする本調査がなされた（23日に機銃廠と養生舎、24日に師団司令部と将校集会所、25日に大講堂を調査）。この本調査には渡邊義孝氏、山口晋作氏、魚津社寺工務店の藤井智規氏も参加された。その後、12月6日から7日にかけて泉田氏による補充調査がなされた（6日に将校集会所と大講堂、7日に師団司令部を調査）。このように建物の調査は進められ、その結果を報告書にまとめていただいた。

また、建物の本調査を行う前の段階で、旧陸軍の建物の図面が存在していることが確認された。これは建物や門柱など、ほぼすべての建造物の状況を描いた詳細な図面で、150枚ほどに及ぶ。さらに「旧陸軍第一予備士官学校（歩兵隊）払下申請図面 建物工作物一覧」という地図もあったが、これは昭和36年12月段階で愛知大学構内に所在した建物の分布（および陸軍の時代における建物の名称）を示したもので、当時の大学の状況と建物の配置をうかがえる貴重な史料である。